

しまくとぅば普及関係者各位

沖縄語教育研究 8

沖縄語の伝統音の種類—その1、首里言葉 (3枚)

2010年2月11日

沖縄語研究家 船津好明

沖縄語の伝統音について記述した文献はたくさんあり、内容は様々です。本稿は、沖縄語は日本語の下位言語ではなく、日本語と関係を持つ独立言語であるという立場から、今後の沖縄語教育の参考のために、改めて沖縄語の伝統音の種類を研究し一覧にして示したものです。

研究の素材は「沖縄語辞典」(国立国語研究所編、以下「辞典」)の48-49頁および93-98頁の沖縄語の伝統音の表(以下「原表」)です。口語、文語、平民、士族の各音が含まれています。伝統音には日本語の音と同じ音も含まれます。これらの音を日本語の50音表に準じた形式で、本稿の2-3頁に示しました。原表の音は整理された典型音であって、実際に使われるときには音に幅が生じます。音の幅については辞典の中でも説明されていますが、実際には更に広く変化します。本稿の表(以下「本表」)の、標音記号と番号のみで仮名文字がない欄は、原表に音がないか、他の音と重複していることを示します。以下、本表から見出される幾つの特徴や所見を掲げます。

- (1) 母音系の音は、破裂音5、不破裂音5で、計10個見られる。
- (2) 現在の日本語の音のうち、いわゆる50音表の中の清音48個は全てある。濁音もある。しかし、拗音のうちkja(キヤ)、kju(キュ)、kje(キエ)、kjo(キョ)の4音はなく、同様にgja(ギヤ)行の4音、rja(リヤ)行の4音もない。
- (3) 現在の日本語にない音の主なもの、沖縄文字(拡張仮名)によって一音一字で示した(本表の網掛けの字)。
- (4) 本表の「108 pu(ぷ)」、「110 po(ぽ)」は辞典の48-49頁の表にはあるが、93-98頁の表にはない。見出し語にはある。
- (5) 辞典は首里の言葉を集めたものであるが、首里以外のしまくとぅばの中にも首里言葉の音と同じ音が多く見られる。また、音韻は地域差や個人差や場面差によって変化する。辞典にない沖縄語はたくさんある。

(次頁は表)

沖繩語の伝統音と文字 - その1、首里言葉

標音記号は沖繩語辞典(国立国語研究所編、以下「辞典」)による。標音記号は文字の系列上5列にしてある。網掛けは沖繩文字で、沖繩語独特の音および国語教育にない拗促音の幾つかを1字に設定したもの。辞典の48~49頁および93~98頁の表に示された音を5列に位置づけて下表に示した。下表の18、20などの音は辞典の表にないか、他と重複するため、仮名文字を入れてない。

?a 1 あ	?i 2 い	?u 3 う	?e 4 え	?o 5 お	1~5は基礎単語の語頭で破裂音。語頭以外では自然に破裂しなくなる。通常の日本語の音にほぼ同じ。 4は話者により音の初めに「い」を響かせる。
'a 6 (-)	'i 7 い	'u 8 う	'e 9 え	'o 10 を	7~10は基礎単語の語頭で不破裂音。 6の音は新規に文字を設けない。 9は話者により音の初めに「い」を響かせる。
ka 11 か	ki 12 き	ku 13 く	ke 14 け	ko 15 こ	
kwa 16 か	kwi 17 き	kwu 18 く	kwe 19 け	kwo 20 こ	
ga 21 が	gi 22 ぎ	gu 23 ぐ	ge 24 げ	go 25 ご	
gwa 26 が	gwi 27 ぎ	gwu 28 ぐ	gwe 29 げ	gwo 30 ご	
sa 31 さ	ʃi 32 す	su 33 す	ʃe 34 せ	so 35 そ	「し」は37。「さしすせそ」の位置に注意。 32は文語用(「すい」を1音で発声)。×si、×sji。34は×se。
sja 36 しゃ	si 37 し	sju 38 しゅ	se 39 しえ	sjo 40 しょ	37は単に「し」。×しい、×sji。39は×せ、×sje。
ʒa 41 ざ	zi 42 ず	zu 43 ず	ʒe 44 ぜ	ʒo 45 ぞ	「じ」は47。「ざじずぜぞ」の位置に注意。 42は文語用(「ずい」を1音で発声)。×zi。
za 46 じゃ	zi 47 じ	zu 48 じゅ	ze 49 じえ	zo 50 じょ	47は単に「じ」。×じい。49は×ぜ。
ta 51 た	ti 52 て	tu 53 と	te 54 て	to 55 と	「ち」は57、「つ」は63。「たちつと」の位置に注意。
ca 56 ちゃ	ci 57 ち	cu 58 ちゅ	ce 59 ちえ	co 60 ちよ	
ça 61 つあ	çi 62 つ	çu 63 つ	çe 64 つえ	ço 65 つお	62は文語用(「つい」を1音で発声)。×ci。
da 66 だ	di 67 で	du 68 ど	de 69 で	do 70 ど	「ち」は72、「づ」は78。「だちづでど」の位置に注意。
za 71 ぢゃ	zi 72 ぢ	zu 73 ぢゅ	ze 74 ぢえ	zo 75 ぢよ	71~75の音は46~50に同じ。72は単に「ぢ」。×ぢい。
ʒa 76 ざ	zi 77 づ	zu 78 づ	ʒe 79 ぜ	ʒo 80 ぞ	76~80の音は41~45に同じ。77と42は同音、78と43は同音。 77は文語用(「づい」を1音で発声)。×zi
na 81 な	ni 82 に	nu 83 ぬ	ne 84 ね	no 85 の	
nja 86 にゃ	nji 87 に	nju 88 にゅ	nje 89 にえ	njo 90 にょ	
ha 91 は	hi 92 ひ	hu 93 ふ	he 94 へ	ho 95 ほ	
hwa 96 っわ	hwi 97 ひ	hwu 98 ふ	hwe 99 へ	hwo 100 ほ	
ba 101 ば	bi 102 び	bu 103 ぶ	be 104 べ	bo 105 ぼ	
pa 106 ぱ	pi 107 ぴ	pu 108 ぷ	pe 109 ぺ	po 110 ぽ	

hja 111 ひゃ	hji 112	hju 113 ひゅ	hje 114	hjo 115 ひょ	
bja 116 びゃ	bji 117	bju 118 びゅ	bje 119	bjo 120 びょ	
pja 121 ぴゃ	pji 122	pju 123 ぴゅ	pje 124	pjo 125	
?ma 126	?mi 127	?mu 128	?me 129 め	?mo 130	?me以外に破裂音はない。 129の ?meは辞典では1語のみ。134のmeと共通に「め」。
ma 131 ま	mi 132 み	mu 133 む	me 134 め	mo 135 も	不破裂音素「'」を付けない。
mja 136 みゃ	mji 137	mju 138 みゅ	mje 139	mjo 140 みょ	
?ja 141 や	?ji 142	?ju 143 ゅ	?je 144	?jo 145 ょ	
'ja 146 や	'ji 147	'ju 148 ゅ	'je 149	'jo 150 よ	
ra 151 ら	ri 152 り	ru 153 る	re 154 れ	ro 155 ろ	
?wa 156 あ	?wi 157 あ	?wu 158	?we 159 ぁ	?wo 160	
'wa 161 わ	'wi 162 ゐ	'wu 163	'we 164 ぁ	'wo 165	
?N 166 ん					
'N 167 ん					
Q 168 っ(促音)					

(外来音について)

沖縄語は現在、伝統語だけでなく、当該語圏外のしまくとぅばや日本語、世界の多くの国や地域の言葉が沖縄語の中で単語として使われ、しかも原語に近い音の維持のために、言文一致の書法を重んじる傾向もあって、当該語の音に多様な音が入り交ざるのを避けることはできない。それらの音に対しては当面、平仮名または片仮名で、現在の国語教育による拗促音などの書き方に準じて書くこととする。例えば「kja きゃ」行の4音を示す。同様

kja きゃ	kju きゅ	kje きえ	kjo きょ	に「gja ぎゃ」、「rja りゃ」の行、nwi、mwi、rwiなどとその周辺の音の種類には際限がない。
-----------	-----------	-----------	-----------	--

注1 本表の6は「a」の不破裂音で、特別の文字を置かない。辞典の上では基礎単語の語頭にはほとんどない。単語の語頭以外では、音の破裂不破裂の区別をしないから「あ」を使ってよいが、ア列の長音の伸ばしの部分を「ー」で表す場合、「あ」を使うことは少ない。圏外語としては時々使われる。例えば人名で「よしあき」の「あ」は不破裂。古典音楽などでア列の音を長く伸ばしたとき、息継ぎ後の再発声は6('a)の音になる。文字としては「ア」に濁点を付けるなどの工夫がある。

注2 本表の「166 ん」は昔、山内盛彬が工工四の中で使っている。

連絡先

〒1870002 東京都小平市花小金井2-6-1 船津好明

Email funatsu@mvf.biglobe.ne.jp